

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 議 録

(第 4 号)

1 平成3年9月19日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	21 番 神田 守隆
22 番 福原 勤	23 番 石井 昌治
24 番 石井 輝久	25 番 流山源次郎
26 番 辻田 実	27 番 横溝 功
28 番 飯田 義男	

1 欠席議員 1名

20 番 生稲 隆

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 渡辺 弘	市長公室長 佐藤 輝雄
総務部長 二通 英雄	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 脇田 元始	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会 会長 福原 修
監査事務局長 島田 啓夫	

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 土橋 康彦
------------	--------------

書記 鈴木 哲
書記 加藤 浩一

書記 鈴木 修一

1 議事日程（第4号）

平成3年9月19日午前10時開議

- | | | | |
|------|---|--------|---|
| 日程第1 | { | 議案第32号 | 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第33号 | 館山市監査委員条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第34号 | 館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第35号 | 館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第36号 | 館山市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| 日程第2 | { | 議案第37号 | 平成3年度館山市一般会計補正予算（第2号） |
| | | 議案第38号 | 平成3年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号） |
| | | 議案第39号 | 平成3年度館山市水道事業特別会計補正予算（第1号） |
| | | 議案第40号 | 平成3年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第1号） |
| 日程第3 | { | 請願第3号 | ゆとり宣言に関する決議の請願書 |
| | | 請願第4号 | 朝鮮民主主義人民共和国との早期国交樹立促進方要望に関する請願書 |

日程第4 請願第1号の訂正について

開 議 午前10時04分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数27名、これより第3回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第32号乃至議案第36号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 私の質疑は議案書に沿って行っていきたいと思います。

議案の第34号であります。館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてということで御提案がありましたが、これについてお尋ねをいたします。私自身は弓道については全く門外漢でありますので、見当違いにわたる点もあるかと思いますが、よろしく願ひいたします。この議案では、市営弓道遠的射場を出野尾に設置するとのことですが、なぜ設置場所を出野尾にしたのでありましょうか。出野尾というのは、市街地から離れておりますし、利用者にとっては大変に不便な場所ではないかと思うのであります。また、同じ弓道の近的射場は市民センターに隣接してあります。弓道の愛好家にとっては、近的と遠的の練習場が全く別の場所というのは、大変使い勝手も悪いのではないかと思うのであります。さらにまた、市民グラウンドでありますとか東市民グラウンドでありますとか、ほかの運動施設とも全然別の場所でありますから、この施設の日常の管理や運営というのは、大変にいろいろ難しい面もあろうかと思うのであります。こうした施設の日常の管理や運営はどのように行うように考えておられるのでありましょうか。まず、出野尾という設置場所について、この出野尾にした理由について御説明をいただきたいと思うのであります。

また、その場所での管理上の問題についてはどのように考えておられるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、議案の36号であります。館山市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてお尋ねをいたします。市営水道の給水区域を拡大し、これまで未給水区域であった館野、九重の地域も市営水道の給水区域にしようとするものでありますが、この条例案の附則によりますと、千葉県知事の認可のあった日から施行するということになっております。この認可の予定日というのはいつを予定しているのか御説明をいただきたいと思うのであります。

平成7年に利根川の水を持ってきて通水をするということに計画がされておりますが、この知事の認可のあった日から水が通水してくるまでの間は給水能力がないにもかかわらず、館野、九重などの地域を給水区域に含めるということになろうかと思ひます。給水区域ということになれば、当然給水義務が生じることになろうと思うのでありますが、いかがでありますか。そのことは現実に可能なのでありましようか。この市の給水義務についてこの間どのようなになるのか御説明をいただきたいと思ひます。

次に、未給水地域はこれで解消することになるのではないかと思ひるのでありますが、そういうことになりますと館山市内には三芳水道の区域と市営水道の区域に二分されることになるわけであります。従来から同じ館山市民が事水に関しては、その料金について市営水道、三芳水道と2つの料金体系になっていて、同じ市民でも三芳水道の地域の市民は大体15%ぐらいの高い水道料金を負担していることになっております。同じ税金を払っている市民であるにもかかわらず、水道の料金が違う体系のもとで運営されているということについては不公平ではないかと、これまでもたびたび問題になってきたところであります。また、行政の執行する立場から見ましても、水道行政についてはいわば二重の行政をやっていることになり、いろいろこれまでの歴史的な経過はあるにしろ、むだの多いことでもあります。これを解消するには、市営水道と三芳水道との一体化を進めるということが必要かと思ひますが、この三芳水道との一体化については現時点でどのように検討されて

おられるのか御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第34号の第1の弓道遠的射場設置場所に関する問題点、これにつきましては、教育長より答弁させます。

議案第36号、県知事の認可予定の問題に移ります。議案第36号の第1点目、県知事の認可予定はいつかとの御質問でございますが、認可事務につきましては、現在県と協議中であり、今年度中に認可を受ける予定でございます。

また、認可後、拡張給水区域は平成7年の通水以前でも給水義務が発生するのではないかと御質疑でございますが、水道法第15条では、給水区域内の給水義務について定めております。この給水義務を解除する正当な理由として、給水区域内であっても、配水管が未布設である場合、給水量が著しく不足している場合等とされておりますので、御質問の給水義務の発生時期は、拡張事業が完了し、用水供給の受水を受け、給水を開始する平成7年となります。

次に、第2点目の三芳水道との一本化についてはどうかとの御質疑でございますが、御案内のとおり館山市の水道は、那古、船形及び北条地区の一部を三芳水道企業団が、残りの地区を市営水道が給水しております。

御質問の一本化への進捗状況につきましては、それぞれの水道事業体で自己水源の確保、未給水地域の解消、施設の整備等の問題を抱え、経営基盤の強化が課題とされておりますが、南房総広域水道企業団の用水供給事業と両水道事業体の拡張事業の推進によりまして、これらの問題を解消するとともに、3市町村並びに関係機関と協力しながら、一本化への環境づくりに努めてまいり所存でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 議案34号、館山市営弓道遠的射場についての御質問でございますが、用地の選定には、まず第1に市有地であるということ、それから遠的射場の性格上、安全面及び射場よりのまでの距離の確保を考慮し、館山市出野尾 547番地の館山市出野尾老人福祉センターに隣接して建設をいたしました。

管理上の問題につきましては、周囲に防護さく及び危険防止の看板等を設置し、事故防止に努めてまいりたいと考えております。

また、定期的な巡視を行って、施設の適切な維持管理を図っていききたいと、こう思っております。

答弁を終わります。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 議案の第34号でありますけれども、弓道の場所については、市有地であること、あるいは安全面というようなことを重視してあの場所を選定したというお話なんです、たゞ市有地で、そしてまた安全面ということで考えるとすれば、ほかに幾らでもあるんじゃないかなという率直なところが、端的に考えても、市民グラウンドもありますし、東市民グラウンドもありますし、あるいは県営施設でありますけれども、運動公園なんかもありますし、それは市の方じゃなくなりますけれども、弓道については、ほかの施設や何かと一体的に利用して、同じ場所に設置して、非常に率直に言って、弓道をやっている方が少ないんじゃないかなと思うんですね。ですから、このスポーツがスポーツとして普及するという上からいっても、いろんな施設と同じ場所に設置してやっていくということの方が、利便性の上でもいいでしょうし、スポーツの普及ということでもいいでしょうし、そういう点からずっとベターなんじゃないかなと思うんですが、そういうことについては検討されなかったのか。今の御説明だともう一步納得がいかないんですけれども、場所の選定について。その辺についてどうお考えになっていたのかということですね。

それから、水道の関係でありますけれども、条例上は何らうたい込まれていないんですけれども、新たに給水区域だということに条例上はなるわけですね。

れども、しかし水道法の15条ですか、これによって給水はできないんだという
ことで、平成7年の水が来るまでは、それは全部お断りできますよという
ことで御説明ありましたけども、それはそれでわかりました。

その次の一本化への環境づくりを進めるというお話でありましたけれども、
この環境づくりというのがちょっとよくわからないんですよ。ですから、
もっと具体的にどういう段階でどういうふうに考えているのか、その段取り
や何かについては現在どこまで検討がされているのか、もう少し御説明をい
ただきたいと思いますね。具体的には平成7年度に水が来るよという段階で
今話が進んでいるわけですが、そういう大きな水にかかわる動きがある中で、
この一本化、一体化という問題は市としてはどういう段階でどういう時期に
考えていくのか、その辺の具体的な話を少しお聞かせいただきたい。

そうすると、それが大体見込みとしては何年ごろ——もう具体的な話は何
年ぐらいまでかかるのかという話になりますから、そうするとその間はずっ
と二重料金というような状況が引き続き継続するということになるだろうと思
います。その時期というのは一体どこまで、那古や船形、あるいは北条の一
部の住民はそうした不公平を甘受しなければならないのかという問題だと思
いますので、その辺を御説明をいただきたいなと思います。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 御指摘のようになるべくいい場所にとすることは
十分考えました。特に東市民運動場はいろいろと検討いたしましたんですが、
やはり遠的射場の関係上、ふらっと外部から自由に出入りするような場所
ですと、もし万が一——恐らくそういうことないだろうと思いますけども、そ
ういう負傷のような事件があったらいけないというようなことで、弓道連盟
の方ともよく話し合ひまして、やっぱり安全面を第一に考えたら、ここがい
いじゃないかということになったわけでございます。

それから、館山市の弓道連盟は、具体的に何人ぐらいいらっしゃるか知り
ませんが、とにかく非常にレベルは高いんです。最近では県民体育大会で
たしか三、四年前に優勝いたしまして、非常にレベルの高い方が弓道をやっ
ていらっしやいまして、割合に遠的射場というのが少のうございまして、遠

的射場をぜひつくってほしいという要望はかねがねからあったわけございまして、そういうような弓道連盟の方々の要望にも応えようじゃないかということで、このように建設に踏み切ったわけでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 一本化への環境づくり、段取り、あるいはその時期はいつごろかというような御質問でございますが、現在両水道事業体が拡張事業につきまして推進をしております。その時期につきましては、両事業体が拡張事業の完了予定ができる前にある程度の段取りをしたい。そしてまた、3市町村にまたがる問題がございますので、十分そういった資料の提供をしながら、そういった環境づくりにしてまいりたいと、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 余り具体的な話が聞けなくてなんですけども、1つだけあと最後聞いておきたいと思うのは、こうした市営水道の給水区域を拡大していろいろ配水管を布設するとか、大変な事業費がかかる。また、南房総広域水道から受水するということで、現在のところ水系のコスト、これについては何か資料はございますか。かなり料金の問題の不安といいますか、心配がいつでもつきまとしてしょうがないわけなんですけど、これについてどの程度のコストが最終的には住民が負担しなければならない問題として出てくるか、その点をお聞かせいただきたいと思うんですが。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 利根川水系のコストということでございますが、これは前々の議会で御答弁申し上げたとおり、受水単価を約220円程度に抑えたいというようなことで現在南房総あるいは県も考えてございます。そして、各事業体を受ける水量によって水道料金というのが決まってくるわけございまして、前回斉藤議員さんにも御答弁申し上げたとおり、受水費が決定していないわけございまして、そういったことで現在コストが幾らにな

るかということは、具体的な検討はされておらないのが現状でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第32号乃至議案第36号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第37号乃至議案第40号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案の第37号平成3年度館山市一般会計補正予算（第2号）及び議案の第38号平成3年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）についてお尋ねをいたします。

8ページですが、交通安全対策費ということで460万円の補正が計上されておりますが、自転車駐車場整備工事費ということであります。説明書の10ページによりますと、館山駅前に280台収容する仮設の自転車駐車場を整備するとのことあります。館山駅前の自転車駐車場については、これまでもたびたび市議会でもその必要性が強く主張されてまいりました。しかし、従来の市の説明では、駅の横断橋の用地にあわせてJRの清算事業団と交渉し

ているとのことで、なかなか用地の手当てができずに今日まで来ました。今回の補正予算の提案は、こうしたこれまでの経過からいたしますと、それ自体は大変歓迎すべきであるんですが、唐突の感もいたすわけであります。そこで、さらに御説明をいただきたいと思うのですが、この用地について具体的にどこになりますか。

また、仮設としているわけでありますが、どのような計画なのでしょう、御説明をいただきたいと思います。

また、本来予定している用地については、平成4年度に購入予定を進めるということでしたけれども、この交渉についてはその後どのように経過しておるのか御説明をいただきたいと思います。

次に、臨時職員の賃金ということでお尋ねをいたします。今回の補正予算では、各所で臨時職員の賃金が計上されております。9ページにはじん芥処理費で298万2,000円、農業振興費で123万4,000円、11ページでは都市計画総務費で61万2,000円、公園費で140万8,000円、12ページでは教育委員会事務局費で220万8,000円、13ページでは保健体育総務費で64万2,000円などなどであります。どうしても人手が足りなくて、それが恒常化しているんだとすれば、臨時職員とすべきではなく、本来は正式の職員を採用するのが当然のことだろうと思うのであります。市にはさまざまな仕事の方が臨時職員ということになっておりますが、その資格も臨時的任用があり、常勤の任用があり、時間的任用がありと、法律的にはさまざまであります。私は最近これらの臨時職員が大変ふえてきているのではないかという感をいたすわけでありますが、市はこれら臨時職員の採用についてどのような考え方に立って採用しているのでありましょくか、基本的なその考え方をお尋ねをいたします。

次に、議案の第38号であります。館山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）についてであります。昨年度大幅黒字となった国民健康保険、繰越金2億3,000万余円から財政調整基金に9,800万円を積み立てようとするものであります。現在でも大変高いというのが国民健康保険税であります。この財源は本来医療費が見込みより少なかったということで、その意味では

必要以上に取り過ぎた国保税だということもできるかと思います。この取り過ぎた国保税を将来に備えて積み立てるというものでありますが、既に変高く払い切れないという声さえあるのが国保税の現状であり、収納率もそのために低下をしているというのが実態であります。私は減税は当然すべきではないかと思うのであります。この減税の必要性についてどのように考えておるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

事実、鴨川市がことしの国保税を去る7月の臨時議会で減税をするということを決めました。また、一昨年は白浜町が減税を実施しております。近隣の市や町でも減税を実施していますこうした現状について、どのように考えられておりますか。

また、3つ目の問題として、この国保税が大変高いということで、収納率が低下をする。払えないという世帯が増大をしているということかと思いますが、こうした中で国民健康保険証の未交付という問題が出てきておりますが、こうした保険証の未交付は人権にかかわる重要な問題かと思えます。こうした件数は一体何件あるのか。そして、その原因は何だと考えておるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

さらに、大幅な黒字を抱えた国保の中で、減税を実施するのは当然とはしながらも、また同時に給付面での改善をするということも焦眉の課題かと思うのであります。館山市の助産費13万円、あるいは葬祭費3万円、これらの水準は、例えば三芳村に比べましても大変低い水準に長い間据え置かれております。大幅黒字のこうした財源をもってすれば、こうした給付内容の改善は十分に可能であります、今回それらの提案はありませんでした。6月の議会の中では、こうした改善についてのお話もございましたが、いつから給付の改善をするお考えなのか、この際明らかにしていただきたいと思えます。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの御質問にお答えいたします。

交通安全対策費の自転車駐車場についての御質問でございますが、今回市

が館山駅東口地区市街地再開発事業の用に供するため、平成3年4月に取得いたしました日東交通株式会社本社わきの土地約440平方メートルを暫定的に280台程度駐輪できます自転車駐車場として整備し、市民の利用に供しようとするものでございます。

工事の内容といたしましては、平面式駐車場とし、簡易舗装、フェンス、防犯灯等必要最低限の整備を行うものでございます。

なお、当初計画の東口自転車駐車場用地につきましては、今後とも国鉄清算事業団と交渉を続けてまいる所存でございます。

これからも駅周辺市街地整備事業との整合性を保ちながら整備を進めてまいります。

次に、臨時職員を任用するに当たり、基本的な考え方についての御質問でございますが、国を初め地方自治体においては、行政改革の理念に基づきまして、定員の適正化に努めているところでございます。館山市におきましても職員の新規採用を抑制し、臨時的な業務に従事する職員につきましては、臨時職員により対応しているところでございます。また、任用の根拠ということでございますが、館山市の場合は地方公務員法第17条に基づく時間的任用職員でございます。

次に、なぜこの時期に賃金の増額補正との御質問でございますが、昨年度末から今年度の初めにかけて、予測できなかった職員の退職等により欠員を生じたことによる補正でございます。

次に、財政調整基金積立金についての御質問のうち、減税の必要性についてでございますが、今回補正をお願いしております財政調整基金積立金9,800万円を積み立てた後の基金額は1億7,116万円でございますが、次年度以降、医療費の改定や老人保健拠出金の増高などが見込まれますので、税率の引き上げだけは極力避けたいという考え方に立っております。

また、平成2年度に白浜町、平成3年度に鴨川市におきまして税率の引き下げを行ったがどうかとの御指摘でございますが、白浜町におきましては、保険料を算定する上で、応能応益割合を勘案し、結果的に税率が前年度を下回ったものの、1人当たりの調定額は前年度を上回ったと伺っております。

また、鴨川市におきましては、財政調整基金の平成2年度末現在高が約4億2,000万円、平成2年度決算における歳入歳出差引額が約3億2,000万円と多額であったことによる税率の引き下げと伺っております。

次に、国民健康保険証の未交付についてでございますが、9月17日現在、現年度税額の2分の1相当額以上の滞納があり、かつ納税相談に応じない者に対するものが212件、住所不明によるものが34件でございます。

助産費、葬祭費についてでございますが、平成4年度に改定したいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 自転車の駐輪場でありますけれども、東口の開発用地が取得できたんで、急遽こういう形でとりあえず東口の開発事業が進まないだろうという見込みのもとで、その間積極的に活用しようということだろうというふうに理解をいたします。それ自身非常にそういうことでは歓迎すべきことだろうということで、市のその辺の対応の早いことについて非常にいいことだなと思います。

それで、4年度の中で清算事業団から用地を購入するという予定になっていきますけれども、先ほどのお話だと交渉を進めると、引き続きということで、ちょっと不安も感じるんですが、その辺の見込みがまだはっきりしない、4年度購入したいというこちらの予定はあっても、それに清算事業団が応じる状況に今の段階では判断ができないと、こういうことなのかどうか。4年度に売めることは売りますよ。しかし、金額と条件については話し合おうという段階になっているのか、その辺はどうなのかということですね。

それから、臨時職員の問題については、これは個々にさまざまな問題があるかと思いますが、これはまた委員会等を通じて具体的な話はしなきゃならぬなと思うんですが、1つだけ聞いておきたいのは、今の行政水準を維持する、あるいは行政水準をさらに引き上げていくという点から、正規の職員を――先ほどのお話ですと、新規採用を抑制すると、抑えると。正規職員はもうふやさないんだというようなニュアンスを先ほどの御答弁では聞けた

んですが、そしてそれで退職をしていきますと、減っていくことになってしまいますけども、そういうことですと心配なのは、どんどん、どんどん正規職員の数が減って、行政水準が非常に低下しやすいかという不安を持つわけなんです、その辺では歯どめが必要だろうと思うんですよね。今後こうした臨時職員をたくさんやっていますけれども、採用をふやしていくというようなお考えは、正規の職員をふやしていくんだというような考えは全くないんですか。ふやすこともあり得るというふうに考えていいのか、その辺はどうなのかという点を1点お聞かせいただきたいなと思います。

それから、国民健康保険の問題ですが、これは大変いろんな問題がたくさんある問題で、先ほどの御答弁ですと、減税はできないけども、できる限り税率の据え置きということを基調に考えていきたいという御答弁でした。今年度は限度額は引き上げられましたから、私はそういう意味では増税だと思っていますけども、いわゆる税率は据え置かれたということになるわけです。今回それで財政調整基金を積み立てたということですから、既に税率の据え置きをやった上で、かつ積み立てたということは、来年度も税率は据え置きますよと、そういう意味だというふうに理解していいんですか。先ほどの御答弁の意味ですね。ことしはもう済んじゃった。来年は税率の引き上げはしませんよと、だから積み立てをしたんですよという、そういう見込みがあった上での話なのかということですね。

それと、確かに鴨川、かなり財調を持っていたとか、その辺の事情は館山と違う面もあるということは承知いたします。しかし、共通の問題は、特別調整交付金が減税を実施したらやりませんよというような趣旨の内容の指導が来ているというような問題がありますから、そういう中で踏み出したということは、それなりにやはり評価できることではないかなと思うんですが、その辺はどうもそういう御見解は持たないようでありますから、それは見解が違ふということで確認をしておきたいと思います。

国保の保険証の未交付については212件ですか。納税相談に来られなかったということなんですが、これは納税相談に来られなかったからということで単純に適用すべき問題ではないんじゃないかなと。これはあくまでもいわ

ゆる悪質滞納者に対してという政府での答弁もあって、これは繰り返しこの辺は国会でも議論もされておるわけで、この辺の運用については、212件というのはかなり多いんじゃないかなと思うんですね、館山市は。この辺はいかがなんでしょうか。実際の県内の実施状況と比較をして、こうした212という数については、私は率直に言って極めて多い市ではないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

それから、4つ目、給付の改善は平成4年度、来年の4月からやるということで、給付の改善の中身までについてはまだ議論がされていないのかなと思うんですが、助産費が13万円の水準を三芳村並みに20万円ぐらいにしましょうよと、それとももう少し値切って15万円ぐらいを考えているのか、いろいろあると思うんですが、率直に言って三芳村程度にしても、1,000万とか1,500万ぐらいですか、そんなに大きな財源の必要なものではないかなと思うんですが、この辺はどういう水準で考えられているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、駅前の駐輪場の関係になります国鉄清算事業団との交渉のとらえ方ということでございますけれども、私も担当課と、それと駅前の再開発の担当課と両方でいつも交渉に行っているわけでございます。その中でいわゆるニュアンスは、いわゆる土俵に上がってきていただいているという感じで受けとめております。これからお交渉を続けていかなければならないというふうなことでございますので、努力をいたしているところでございます。

それから、国保会計につきましてでございますが、まず第1点目の来年度の税率の見込みの問題でございます。市長答弁にもありますが、基本的には税率を引き上げないと、これを極力努力したいということでございます。今の時点で必ず税率は据え置きかと言われましても、難しい問題だと思います。御承知のとおり国でもこの問題かなり神経使っているわけでございます。また、地方三団体につきましても国に対していろいろ要望を――平成4年度に国保制度の改善に向かって要望を出しているところでございますので、そう

というような諸要件を見ながら極力税率は引き上げないという方向で努力をしてまいりたいと考えております。

それから、2つ目の特別調整交付金の問題でございますけれども、平成3年度の交付は年度末になるわけでございます。そういうことでその時点でないとはっきりわかりませんが、現在の国の厚生省の考え方としては、従来どおり税率を引き下げた場合には、特別調整交付金については受け付けをしないという考え方を持っているわけでございます。館山市としては、やはりこの調整交付金を歳入すべく努力をしていかなくならないというふうな基本的な考え方を持っております。

それと、3番目の国保の未交付の件数及び他市の状況でございますけれども、他市の状況、県下29市の中で11市資格証の交付をいたしております。ただ、この件数がそれぞれの状況によるものでしょうか、やはり公式な発表がございません。そういうことでございます。したがって、館山市で平成3年度の現在時点での212ということは多いか少ないか、それについては公的な見解といえますか、私どものそれはちょっとできないんじゃないかというふうに考えています。

それから、最後に助産費、葬祭費の額、水準でございますけれども、水準をどういうふうに来年度の場合考えているかということでございますけれども、各市または近隣町村のそういうふうな状況を踏まえながら検討した上で慎重に決めていきたいと、かように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 職員の採用の問題でございますけれども、退職者が出た場合は、採用しないで抑制していくのかという質疑でございますが、定員の適正化に努めているということでございまして、退職者が出た場合には補充をしてまいります。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 清算事業団との駅前の自転車の駐輪場の関係ですが、交渉の土俵に上がったという、そういう段階ですかと、まだこれから、

しこも踏んでいないのかなという、土俵に上がってもいろいろありますから、待ったをするとか、まだそういうところには全然っていないようですから、ようやく緒についたという、その辺のニュアンスなのかなということで受けとめておきたいと思います。これから大変だろうと思いますけれども。

退職者があった場合には、定員の適正化を図るということで、採用をしていくというお考えですから、それはわかりました。

それから、国民健康保険ですけれども、私は今の御答弁でも、館山市が国民健康保険証の未交付件数で 212 件というのは、私がこれまでいろいろ見ている数字ではかなり多い部類に属するという印象を持つんですが、今の御答弁でも 29 市中 11 市ですから、そうすると 18 市はそういうことはやっていないということになるかと思うんですね。ですから、非常に館山市は保険証は、国保税を払ってくれないと保険証を交付しませんよというかなり厳しい措置をとっているにもかかわらず、昨年度では収納率が 0.8 ポイント下がる。これはずっと税率を上げないできて、横並びできて、ここへきて去年は 0.8 ポイントということで、かなり下がったんですよ、収納率の面で。これはやはり今の国保税が高いという問題で、こういう形であらわれているんじゃないか。とても館山市の職員が税の徴収を手抜きをしているとかということは全くない、むしろ他市に比べてもこうした保険証の未交付ということを見ても、かなり厳しくやっている市だというふうな感じを持つんですよ。そういう中で収納率が低下をしているというのは、これはもうかなりゆゆしき事態じゃないかなと。これは非常に国保の今後を占う上でも、重要な兆候が出てきたんじゃないかなという感じを持つんですね。これはもう今の国保税の高さに、余りの高額な国保税に耐えがたいという納税者の今の評価があらわれた結果じゃないかなと。もうここは本当に深刻にこの事態を考え直さないでいるということとはできないんじゃないかなと思うんですね。そういう点でこの収納率の低下という問題についてどのような受けとめ方をされているのか、その辺をお聞かせいただきたいなと思うんですが。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 滞納者の状況を見ますと、職業別で見えます

と、営業所得者というのが16%という割合で一番多いわけございまして、ここに来て景気の陰りが出て、そういう面で滞納率がふえたのかなというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。

日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 通告をしてございませんので、改めて新しい問題ということではなくて、ただいま神田議員の質疑を聞いておりましたんで、それに関連して一、二お聞きいたしたいと思います。

その前に市長答弁の中で、保険の財政調整基金の積み立てが1億7,000万の合計になるというふうに御答弁があったように聞いたんですけども、あるいは1億1,000万だったか、この資料を見ると1億100万ではなかろうかと思うんですけども、その辺はいかがでありましょうか。私の聞き違いかどうかお聞きいたしたいと思います。それが1点。

それと、特別調整交付金の件ですけれども、それに関連してお聞きしたいんですが、今回白浜と今鴨川が税率を下げたと、こういうことですね。それぞれの事情があるから、そういうことになったということですが、それでは館山市と比較して鴨川及び白浜がどの程度の金額になったのかお聞きいたしたい。

今の民生部長の御答弁では、調整交付金は税率を下げてしまうと厚生省はやらないよという性格のものだということですが、果たして本当にそういうことなのかどうか、身近な例があるかどうか。実際に税率を下げた結果、その年度の財政調整交付金は入らなかったという例があるかどうかをお聞きいたしたい。

館山市はその特別交付金は税率を下げないわけですから、当然今年度はちょうどいいたすということであるという御答弁ですね。それでは、前年度2年度分はどの程度の交付金が入ったのかお教えいただきたい。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 財政調整基金の積立金の合計額1億 7,116万円でございます。

◎18番（日下君敏君） どこに書いてあるんですか。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この数字はこの議案等に入っておりません。合計額でございます。

それから、2点目ちょっと質問を聞き逃したんですけれども、3点目、税を引き下げた場合の具体的な交付の事例があるかどうかということでございますけれども、これは実際に厚生省の方で取り扱っているわけでございますが、実際にあるというふうに聞いております。

それから、特別交付金の館山市の額でございますけれども、平成2年度はたしか4,600万円だったと思います。

済みません。2点目の質問について再度。

◎18番（日下君敏君） 鴨川と白浜が下げた結果、幾らになるかですね。参考までに言ってもらえるとありがたいんで、1人分と世帯分で。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 鴨川市と白浜町、館山市の比較でございますが、世帯当たりで見えますと、鴨川は平成2年度の時点では世帯当たりで16万 8,331円でございます。平成3年度が15万 8,169円でございます。白浜が1人あたりにしまして――世帯当たりがちょっと白浜で出ておりませんので、1人あたりにさせていただきますと、平成元年度が6万 3,535円、平成2年度で6万 3,703円でございます。館山市は世帯当たりで言いますと、平成2年度14万 9,638円、3年度が15万 3,138円でございます。白浜の場合にはちょっと手持ちの資料にございませんので。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 第1問目、市長答弁で1億 7,000というのはこれにのっていないということになると、私もさっぱりわからないんですけど、どこでその1億 7,000というのを見たらいいんですか、市長答弁の中で。私これを聞いている、会議案。それが1点。

それから、例があったら挙げていただきたいということで、例があるとい

うことであるならば、できれば千葉県内ですね、あればお教えいただきたいということなわけであります。税率を引き下げたためにその年度の特別調整交付金がいただけなかったという例があるならば教えていただきたいということでもあります。そこで、わからないというのは、私も通告してございませんで、例があるといううわさではちょっといかなので、例えば何市がこうであったということを聞いていますよということがあれば、お聞きいたしたい。

それと、鴨川は15万 8,169円というのは、引き下げた結果こうなったということなんですか。当初上げておいて、今回下げたということなんですか。それで15万 8,000円になった。館山市の場合は15万 3,000円だから、館山市の方が幾分額からいうと安いかなというふうに思っていますが、そういうことでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 1億 7,116万の数字がどこに出ているかということでございますか。

◎18番（日下君敏君） 会議案ですよ、私がいただいている。この平成3年第3回館山市議会定例会議案ということのどこに1億 7,000万という財政調整基金があるか。のっていますか。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この中にはありませんが、議案の19ページに…

◎18番（日下君敏君） これですか。私のいただいているのは会議案です。

◎民生部長（佐藤澄雄君） はい。会議案でございます。

19ページの財政調整基金積立金がございます。一番下の財政調整基金の積立金補正額 9,800万円、それで合計で1億 100万になっているわけですが、現在基金として積み立ててある額は 7,316万 3,259円でございます。今回補正によりさらに 9,800万円を積み立てしようとするもので、合計で1億 7,116万円、こういう形になるわけでございます。

◎18番（日下君敏君） 最後で結構ですけども、1億 7,000万というのが、私に渡されている資料はこれだけなんですね。だから、今見ていたんですけ

ど、どうしても1億7,000万どこに出てくるんだというふうに思うわけですね。これ見ると、積み立てのトータルは1億百何十万しかないもので、1億7,000というのは一体どこにあるんだと。あるいは今26番議員がこっちにあると言うんだけど、私こっちは持っていないんで、これしかないものですから、これにのっておるのかどうなのかということをお聞きいたしたいということです。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 今ある額が7,316万3,259円、これはのっておりません。

◎18番（日下君敏君） わかりました。そういう見方をしなくちゃだめだということですね。これは裏で読めということですね。結構です。わかりました。いや、わからないけども、結構です。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑ございますか。

辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 2点について申しわけありませんけれども、質問させていただきます。

第1点は、8ページの総務費の中の13節委託料、広報編集業務委託料でございますけれども、これは毎月広報は出ているわけでございますけれども、何月号から委託になったのか。そして、これは委託したのは何月号から何月号までの期間なのか。来年度になるとこれは自動的に委託されているから、来年の当初予算の中に入ってくるもの、継続されるものなのか、その関連性についてまず第1点。

そうすると、これは広報が今まで内部でやっておって、今度は外部に編集を委託するというのは、どういう状況があったのか。私が想定されるのは、市の職員が手不足でもって、これに携わる人がいなくなると、こういうことなのか。それとも外部でもってやれば非常に優秀な人がいるので、それに任せてやった方がいいということなのか、そこら辺のところについて。

そういうことだと多少問題出てくる。そうすると、一般的には印刷業者に入札をしてやるということになってくると、市の広報を入札して編集を委託

するということになってくると、そこら辺はちょっと穏やかならぬものが出てくるんじゃないかというふうに思うんですけども、そこら辺の経過について、ひとつどういう経過でどういうメリットを持って、いつからこれを実施したのか、これを実施しようとするのか、この点についてお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） まず第1点でございますけども、第1点は4月から委託をしてございます。4月から委託してございまして、4月から今月9月までにつきましては、既定予算の中で行っておりますけども、今回補正をするものにつきましては、10月から3月分ということでございます。

それから、第2点目の編集業務の委託をどういう理由でということでございますけども、一応市民が身近に感じるような広報、それから興味を持って広報を読んでいただくというようなもの、見やすい広報ということを考えまして、今までもそういうふうにやっていたわけでございますけども、さらにそれを改善するためになお広報について委託いたしました。

それから、3番目のどのような方法でということでございますけども、それにつきましては一応本業務の特殊作業ということを考えまして、雑誌「ネプチューン」等を発行していますところの企画、編集に精通しており、またすぐれた人材、技術を要しているということで、一応アワ・プランニングに委託してございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） しかしながら、4月からということになりますと、当初予算どおりでございますから、これはちょっとその前の当初予算に組むべきもので、補正でこれをもう4月からやったのをさかのぼって出るということについては、ちょっとやり方について問題があるんじゃないかと思えますよ。

それに、広報という、もうこれ大変なものですから、市の内容を、これは議会の内容も入っているわけですから、そういうものが事務サイドだけでい

いだろうということでもって業者に委託してしまって、そしてその後から補正でもって議会の方をお願いします、こういう形で出てくる。これらについてやはり議会の中の総務委員会なり、そういうところでもってかなり審議していかないと、広報というのは、市のこれはもう中心的な問題ですから、市民と市とのパイプですから、広報ですよ、これは。そこら辺の新聞だとか何かとちょっと程度が違って、ここに書いてあることは、市のいろんな通達文書だとか、正式のものが出るわけですから、そこら辺のものを变えるに当たって、編集ですから、内容はいいとしても、もう少し議会サイドに相談して、それでかなり慎重な論議を経た上で当初予算に組んでやればいいんですけど、やってしまいました、議会の方で予算お願いしますという形は私は、細かいことですけども、こういうところの行政をどんどん進めていって、エスカレートしていきまると、これはもう大変な市政ですよ。ファッショですよ、それは。議会を無視して、市の広報の編集を変えてやる。そして、それを当初予算の中で事前に審議して、そして議決を経てから委託すれば別ですけども、発行しちゃった後でもって、4月からもう発行しちゃっているわけですよ、4、5、6、7、8まで出ているわけですから。そして補正予算でもってお願いしますと、初めて聞くわけですよ、我々は。いいとか悪いという問題じゃありませんじゃないですか、これは。こういう形が――広報ですから、これはかなり私は慎重に対処しなきゃいけないと思いますよ。広報がこれですから、ほかのものがこういう形でもって行われるということになりますと、これはもう議会軽視にもなりますし、これはもう大変なことですよ。簡単にはそれ済む問題じゃございませんので、この点はやっぱし市長としても、これはもう市長の見解聞きたいですね。基本的な問題ですから、広報という問題ですから、ほかには手段ないんですから、市民とのパイプは。それで、こういう形でもって――当初予算ならわかりますよ。当初予算でもってこれを審議して、これやるかどうか。それで通った後に委託するのは、これはいいんですけども、全然相談がなく、4月ということは、もう当初予算を審議する段階じゃわかっているわけですよ、3月から編集していないと4月は出ませんから。こういう扱いというのは、ちょっとしつこいようでご

ざいますけども、けじめをつけておかないと、今後大変なことになろうかというふうに思いますので、この点については市長の御答弁をいただきたい。

それから、もう一点、さっきちょっと急いだんですけども、12ページの8節報償費の中で、外国青年指導相談員謝礼ということでございますけど、どういう形の外国人にどういう、指導員というのはどういう指導員がどういう形で指導されて、そして市として謝礼を出さなきゃならないことになったのか、この点。市が迎えている外国人ということになりますと、教師や何かの問題がありますから、ここから出ていくのは何かちょっとあれかと思うんですけども、ちょっとわかりませんけれども、どういう身分と立場の指導員にどういう形のものの謝礼をしたのか、この点。最初2点と言ったんですけど、この2点についてひとつ御答弁いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 現在補正をお願いしているものにつきましては、あくまで10月から3月分ということでございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 外国青年指導相談員の謝礼でございますけども、今館山市教育委員会には外国人教師を招いて、外国語の指導をお願いをしておるわけでございますけども、ことしアメリカ人のベスハリスという方がいらっしやいまして、しかしこの方たちの生活は、初めていらっしやるわけですから、非常にいろんな点で面倒を見てやらなきゃならないわけです。ただ、いて、教育をやってくれと言っても、買い物はどこに行くか、どこに何を買いに行くか、たまにはどっか旅行に行きたいとかと、そういうようなことが非常に要求されてきているわけでございます。この外国青年の招致事業は目的は非常にいいんでございますけども、いわゆる各地でいろいろとトラブルが実際起きているわけでございまして、かつて私が来てからも、8月にいらっしやいまして、1年契約でいらっしやるわけでございますけども、12月にホームシックになっちゃってお帰りになっちゃった方もいらっしやいまして、その外国教師の生活の安定というのは非常に大きな問題になっているわけでございます。

そこで、かつて英語教師をやっていたらしゃって、会話のできる方をお願いをしまして、生活の面倒を見てくれと、生活になれるまで面倒を見ていただく。あるときは、日曜日なんかはドライブなんかの相手をしていただくとか、いろいろとお願いすることはたくさんあるわけですが、今までは退職した方の厚意でもっていろいろとお願いをしておったわけですが、もう厚意だけではとても済まなくなりまして、たまにはそのうちに泊まっていたいて、夕食をともしてもらおうとか、あるいは日本人の生活に触れてもらおうとかと、そういうようなこともいろいろ出てまいりまして、やはりそういう方をお願いする以上、若干の謝礼をした方が非常にお願いしやすい。そして、そのような方をお願いすることがまた外国人教師が安心して生活ができると、安心して中学の教育に当たっていただけると、こういうような目的のために本年度補正予算でお願いした次第でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 最初は4月からということですが、これが10月から云々ということに変わったわけですが、そこら辺はどうして変わったか、統一見解をひとついただきたいということ。

それから、ということになりますと、どうしてこの時期に、まだ9月ですから、これだけの補正を組まなきゃならないということ、その理由がどうしてここに出てきたのか、その点についてやはり具体的な明確なひとつ御説明をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 最初の答弁でも御説明しましたように、4月から行っておりますけれども、4月から9月につきましては、内部の執行変更により既定予算の中で対応してきておりまして、10月から3月までについて今回の補正をお願いしたということでございます。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第37号乃至議案第40号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第3、請願第3号及び請願第4号の各請願を一括して議題といたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各請願は、ともに9月10日の議会運営協議会までに受理したものであります。

お手元に配付の請願付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

請願第1号の訂正について

◎議長（福原 勤君） 日程第4、請願第1号の訂正についてお諮りいたします。

文教民生委員会において継続審査中の請願第1号産業廃棄物処理場設置に関する請願書について、お手元に配付のとおり請願者から一部を訂正したいとの申し出がありました。

お諮りいたします。申し出のとおり請願書の訂正を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、申し出のとおり請願書の訂正は承認されました。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） なお、この際申し上げます。

9月10日議会運営協議会開催までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳

情送付表のとおり所管の常任委員会に送付いたしましたので、御報告いたします。

延 会 午前11時25分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明9月20日午前10時開会とし、その議事は平成2年度各会計決算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第32号乃至議案第40号
- 1 請願第3号、請願第4号
- 1 請願第1号の訂正について

